

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連  
 有  
 無  
 緑化啓発資材無料配布の見直し

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	種子の配布事業(主要事業)							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	公園緑地係	評価票作成者	公園緑地担当係長 朝岡正志
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項				単位施策(中)	緑化推進及び緑地保全	コード	1 2 3 1
		水と緑の環境づくり			単位施策(小)	種子・苗木の配布	コード	1 2 3 1 2
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	自宅で種から育てていただくことで、緑化に対する意識や樹木・花に対する管理能力の向上を図る。			
1-5 事務事業の内容	花の種子を無料で配布する。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	種子から育てていくことは非常に時間や労力を必要とするため、育てる人ができるだけ興味を持てるような種子を配布するよう心がけた。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。		生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと思われる。	
	平成19年度	花の種子のみならず緑を楽しみながら収穫出来るような野菜の種子も配布した。	予算の削減により年1回に縮小したが、市民のニーズはかなり高い。		"	
	平成20年度					
	平成21年度					
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	種子の配布数(袋)		7,300(袋/年間)	7,300(袋/年間)	家庭で種子から花を育てることにより緑化の推進をはかり、街並み飾りができる。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績a(袋/年間)	4,800	1,800								
	直接事業費b(千円)	491	94								
	人件費c(千円)	402	400								
	合計コストd(b+c)(千円)	893	494								
単位コストd/a(千円)	1袋当たり0.19	1袋当たり0.27	当たり								

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、種子を購入する経費。  
 人件費は係総事業費(3人分)の4割の内5%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	4,800(袋)	1,800(袋)								
	後期目標値に対する達成度(%)	65.7(%)	24.6(%)								

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識している。	行革の一つとして事業規模が縮小されてしまうが、その中で緑化の推進に努めていく。	配布を開始してからわずかの期間で種子がなくなるほど盛況であり、緑化に対する関心の高さをうかがうことができた。
平成19年度	予算削減の折、無料配布にも限界がある。	より多くの市民が楽しめるような、種子の選択をし浅く広く配布できるようにする。	〃	
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	C	種子の配布事業の果す役割を精査すること。	
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			